

鄭文公下碑

ていぶんこうかひ

楷書

鄭道昭

中国・北魏

永平四年(五一一年)刻

鄭道昭が、父鄭義の事跡を後世に伝えるために自ら筆をとったもので、初め天柱山の頂上近くの崖に彫ったが、後に雲峰山にさらに好適な崖を発見し、同じ碑文を彫ったものである。天柱山の方を上碑といい、これを下碑といって区別している。天然の崖壁に彫られた摩崖(まがい)である。鄭義下碑(ていぎかひ)ともいう。北魏の書の特徴の一つは方筆であるのに、これは円筆で、まろやかである。字形も規模が大きく、おおらかでありながら、しかも力強い書きぶりである。

《特徴》円筆 おおらかさ 力強さ

桓 武 並 美



